

Sun*

AI-Ready

Sun* SDLC

Software Development Life Cycle powered by MoMorph

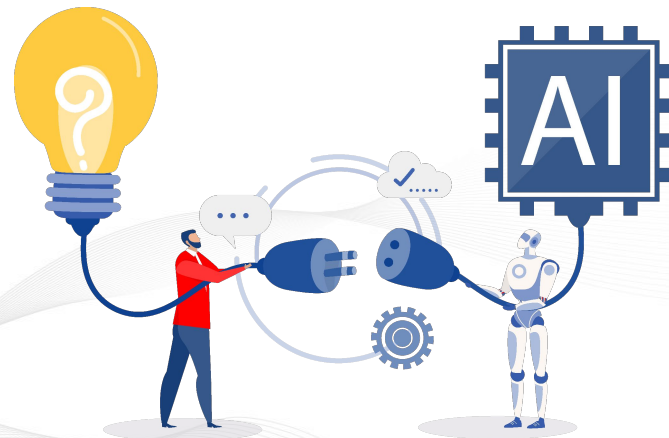
AI×自動化で開発プロセスを再構築する、Sun*独自の次世代開発アプローチ

AIの進化により、開発現場は“人の創造力”と“AIの自動化”が共存する新しい時代へ。

生成AIの普及により、開発のスピードと複雑性はこれまでにないレベルに達しています。

属人的なナレッジに依存する従来の開発では、品質・スピード・コストの両立が難しくなりつつあります。

その中でSun*は、AIと人の協働によって“**創造性を損なわずに再現性を高める**”開発手法として、AI-READY SDLCを推進しています。



Sun*の Software Development Life Cycle が実現すること

属人性の排除
× 再現性のあるプロセス

設計・コーディングの
自動化／AI補助

多国籍チーム連携
・言語壁の解消

品質 × スピードを
両立する自動テスト体制

AIが伴走する、 マルチエージェント型 次世代開発プロセス

Sun* AI-READY SDLCは、従来の開発ライフサイクルに AIと自動化を融合させ、チームの創造性を最大限に引き出す次世代の開発アプローチです。要件定義から見積もり、設計、実装、運用、評価に至るフェーズにAIを組み込み、継続的に学習・最適化するマルチエージェント構成になっています。

Sun* AI-Ready SDLCが解消するもの

手戻りを防止

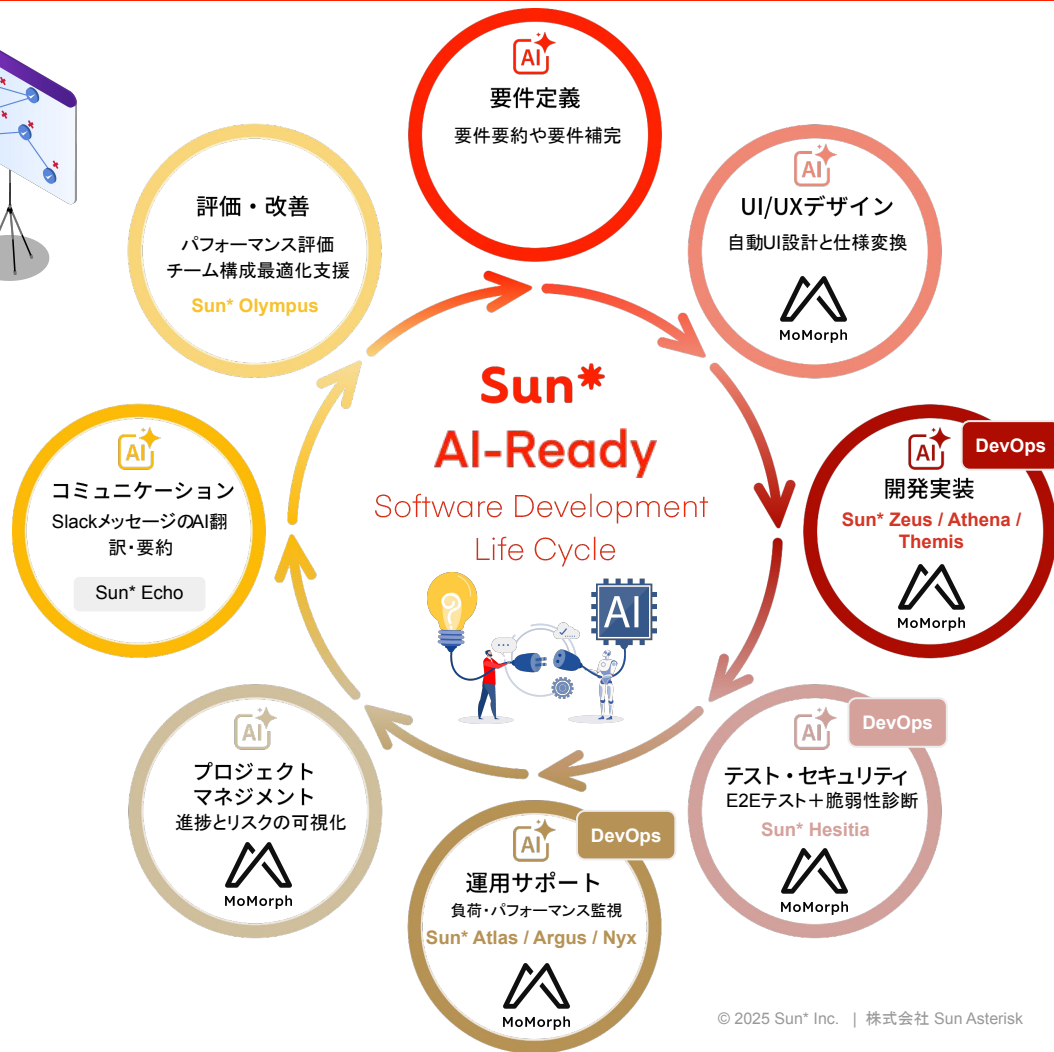
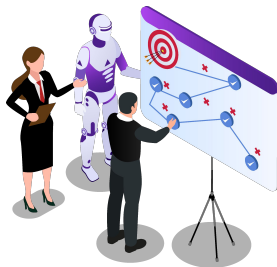
設計工数を
大幅削減品質×スピード
の両立

運用負荷を削減

早期リスク検知

育成・評価の
仕組み化

「UI/UXデザイン」と「開発実装」は、ユーザー体験とプロダクト品質の鍵を握る重要なフェーズです。Sun*のマルチエージェント型SDLCでは、**MoMorph** がこの2つのフェーズを横断的に支援し、要件に沿ったUI設計から自動コード生成までを一貫して実現します。



Sun*のDevOps基盤と連携する「デザイン起点のスペック主導×AI駆動」開発モデル

Sun AI-READY SDLCは、MoMorphを起点に、CI/CD・テスト・監視・評価までを一気通貫で管理。DevとOpsをつなぐツール群と共に、持続的な品質保証と高速な開発サイクルを実現。

期間

1~2Week

開発フロー

Dev

Ops

PLAN
計画CODE
実装BUILD
ビルドTEST
テストDEPLOY
デプロイOPERATE
運用MONITOR
監視FEEDBACK
継続的な
フィードバック

品質担保
SREを担う
Sun*の
独自ツール

グレーは
現在開発中



Sun*MoMorph

デザイン起点のスペック主導型AI駆動開発：設計と管理

Sun* Apollo

開発インサイトと技術スタック分析

Sun* Hesitia

脆弱性スキャン

Sun* Themis

静的コード解析

Sun* AscleAsclepius

自動テスト生成・実行

Sun* Zeus

CI/CD一元管理

Sun* Atlas

負荷試験ツール

Sun* Argus

パフォーマンス監視

Sun* Heemes

インシデント監視

Sun* Atena

コードカバレッジ管理

Sun* Nyx

セキュリティ & EoLアラート



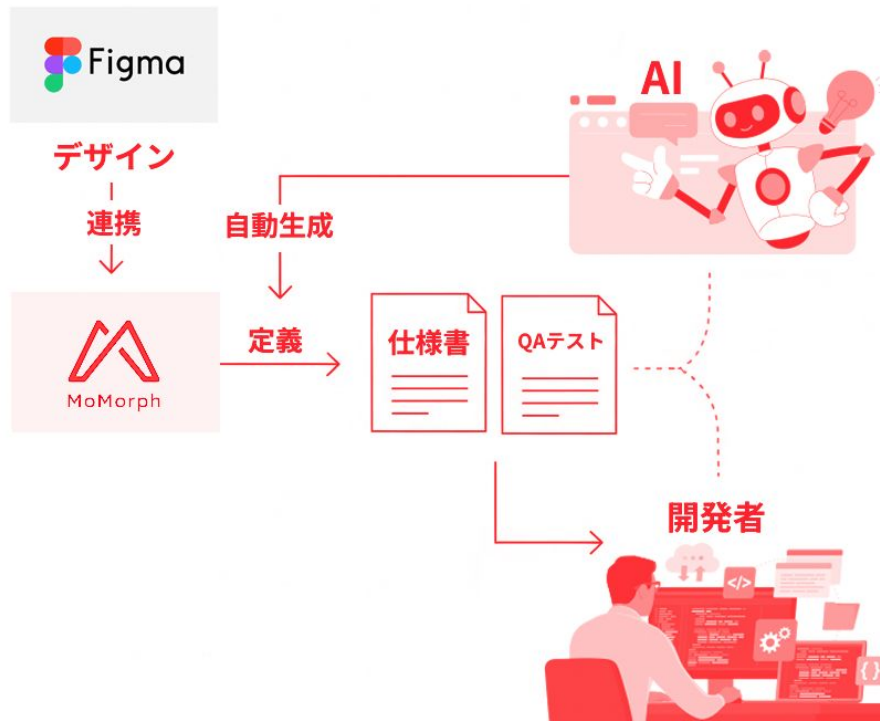
MoMorphのご紹介

デザインから始める、新しいスペック主導型AI駆動開発

MoMorphは、デザインツールと開発現場をシームレスに繋ぎ、AIと人間の協業を加速させる開発プラットフォームです。

1 デザインとの連携

まず、Figmaで作成されたUIデザインをMoMorphに連携することで、デザイン情報が開発プロセスの起点となります。



2 仕様書とQAテストの自動生成

連携されたデザインから、開発の基盤となる「仕様書」と品質を担保する「QAテスト」を自動で生成。

3 AIと開発者の並行開発

自動生成された仕様書とQAテストは、AIと人間の開発者双方にとっての「唯一の正しい設計図」となります。AIと開発者は、この共通の設計図を元に並行して開発を進めることができます。

“人×AI×MoMorph”が連携する、次世代の開発オーケストレーション

MoMorphは、各開発工程を担うAIエージェントを「自律的かつ連携的」にオーケストレーションすることで、プロジェクト全体の**開発精度・スピード・品質**を飛躍的に向上させます。



得られる
価値

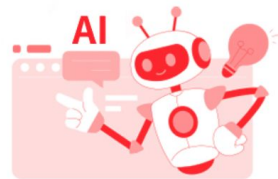
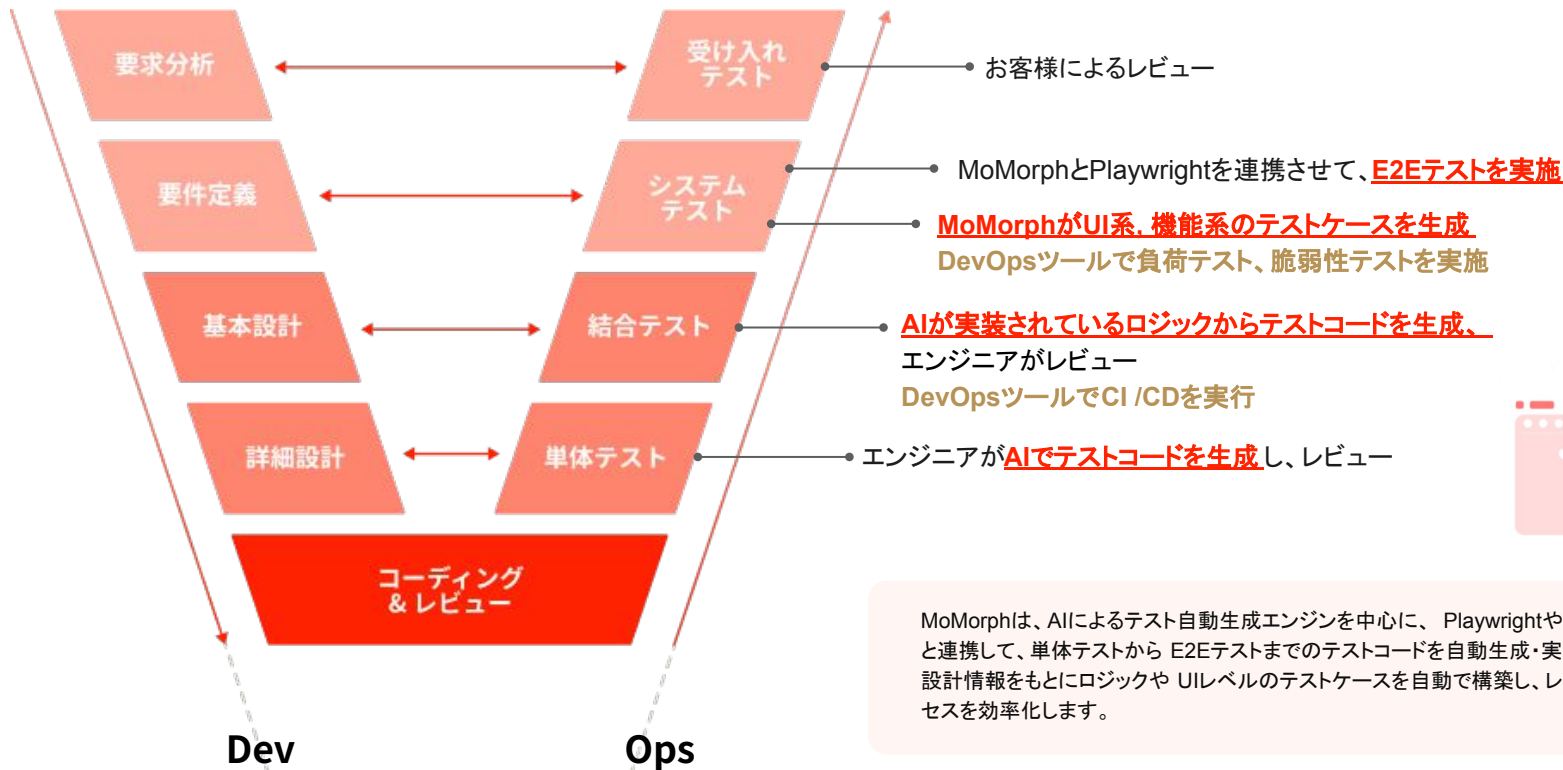
要件と設計の一貫性を高め、手戻り防止とチーム連携のスピードを向上

設計の再現性とテスト精度を両立し、一貫した品質基準を確立

開発スピードと品質を同時に向上

テスト高速化とコスト削減
／仕様との乖離検出

AIを活用した「テストケースの設計」と「テストコード・スクリプトの実装」の流れ



AIが「非生産的工数」を“制御”し、プロジェクトの「成功確率」を高める

予算超過や品質妥協は、チームの努力ではなく“仕組みの欠落”から生まれる

MoMorphは、AIで進行リスクを「予見」し「制御」することで、チーム全体が計画通りに価値あるアウトプットを生み出す環境をつくります

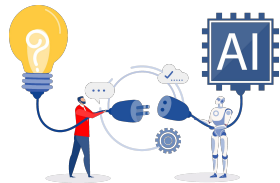
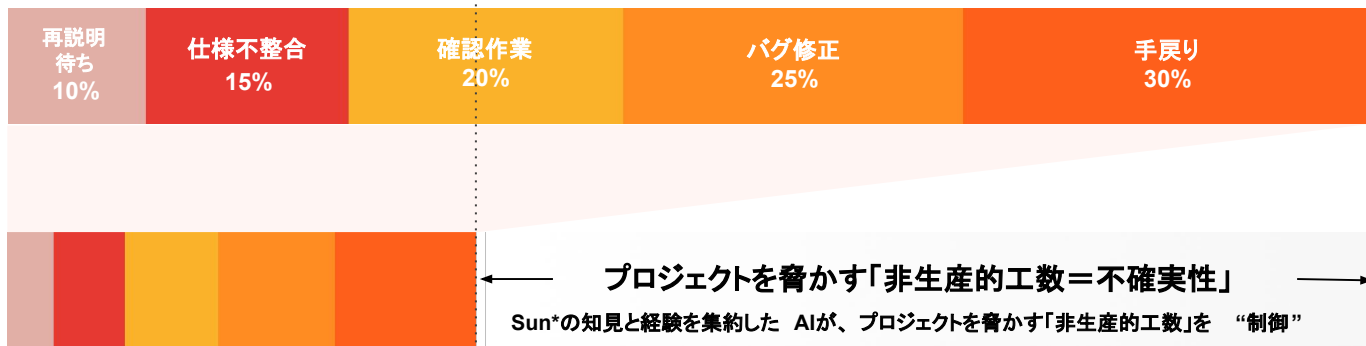
ありがちな
失敗パターン

✕ 頻発する仕様の不整合や伝達ミス

✕ レビュー毎に最新情報を探す手間

✕ 手戻りやバグ修正に工数が圧迫される

✕ 確認作業が属人化しボトルネックに



✓ PJ全体を可視化し、リスクを「予見」

✓ 変更点を自動同期し、手戻りを「防止」

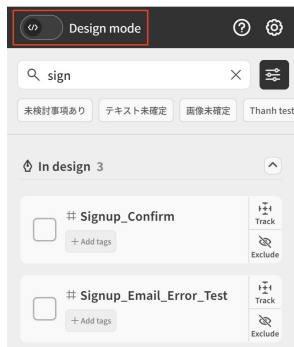
✓ 認識ズレをなくし、チーム全体で「実行」

「非生産的工数」を、本来注ぐべき「価値創造の工数」へと転換

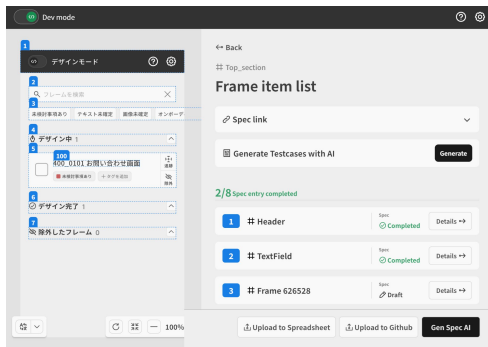
AIによるリスク制御で、プロジェクトの「成功確率」を最大化

画面サンプル

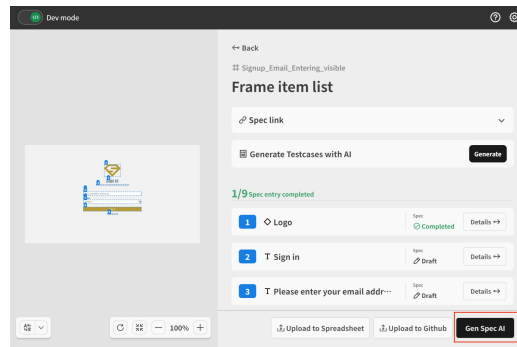
デザイン進捗管理機能



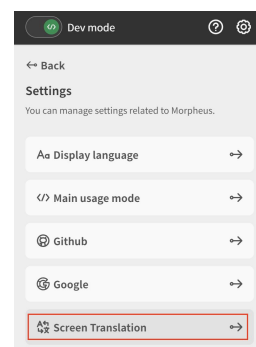
番号付きアイテムでデザインプレビュー



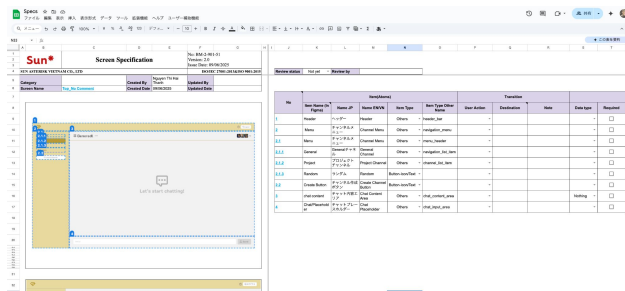
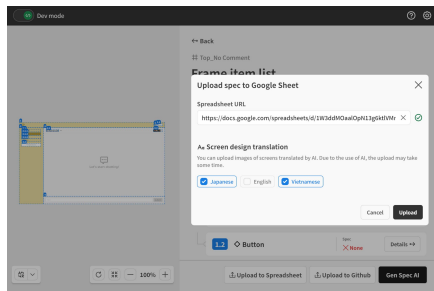
AIによる仕様の生成



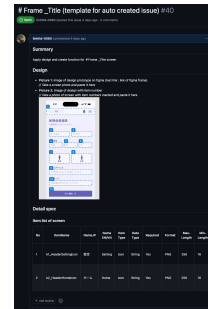
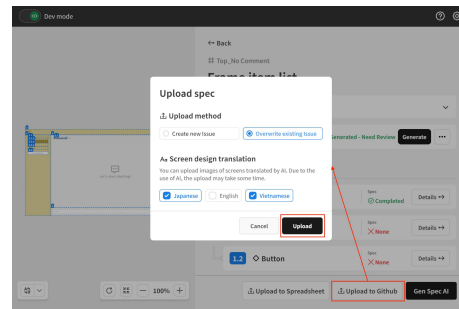
I18n辞書同期機能



Googleスプレッドシート間で仕様書の双方向同期



GithubのIssueに応じたステータスの同期



MoMorphの導入企業例

匿名名称	業種・特徴	組織規模	活用領域・導入背景
国内大手教育グループ	教育・出版・ICT	従業員1万人以上	サービス開発の高速化／要件整理支援
不動産×IT企業	不動産Tech・住宅情報	上場企業／数千人規模	スマホアプリの開発支援・UI改善
総合エネルギー事業会社	インフラ・電力	グループ全体で1万人超	業務アプリ刷新／デジタル化推進
日系自動車メーカーのIT開発部門	製造業／コネクテッド領域	グローバル展開／1万人超	車載WebアプリのUI改善・品質支援
大手物流グループ	国際物流・運輸	数千人規模	社内業務システムの再構築・AI適用
グローバル人材サービス会社	人材・BPO	海外拠点あり／数百～千人規模	自社サービスの刷新・開発支援
上場コンサルティング企業	経営・ITコンサル	数百人規模	クライアント向けプロダクトの開発伴走
スタートアップ（IoT／製造業向け）	製造DX／ハード連携	数十人～100人規模	UI／UX設計から開発までの総合支援
地方自治体向けSI企業	SI・公共インフラ	数百人規模	システム開発の標準化／ドキュメント自動化支援

詳細画面設計やテスト・ケース作成において、従来比 50～70%の工数、コスト削減を確認。精度・実用性ともに高評価を獲得。



AI-Ready SDLC導入の 進め方と展開ステップ

MoMorphが対応する5つのAI駆動開発領域



Sun* AI-READY SDLCとMoMorphが「変化に強く、再現性ある成長」を実現する領域



グロースフェーズのプロダクト開発

クライアントの課題

- ・高いスケーラビリティとセキュリティを確保したい
- ・多機能開発を短期間で並行推進したい
- ・品質担保と技術負債への対応が追いつかない

Sun*の強み

- ・AI×マルチエージェントによるSDLC最適化で、属人性を排除
- ・開発品質とスピードを両立するDevOps／自動テスト基盤
- ・技術負債を抑えながら、継続的な機能拡張に対応可能

Sun*が選ばれる理由

- ・増加するユーザーや機能に耐えられる設計でスケーリング
- ・品質を担保しつつスピードも維持
- ・特定メンバーに依存せず、体制を柔軟に拡張できる



既存事業のDX・業務リプレイス

クライアントの課題

- ・既存業務を効率化／可視化したい
- ・レガシーシステムを安全に刷新したい
- ・製法・保守性の高い構成にしたい

Sun*の強み

- ・現状業務の棚卸しから改善設計まで一気通貫で支援
- ・オープンAPI／SaaS／iPaaSを活用した段階的リプレイス
- ・移行リスクを抑えた品質管理と、柔軟な拡張性の両立

Sun*が選ばれる理由

- ・属人化やブラックボックスを解消できる
- ・今後の業務変化に強いシステムへ刷新できる
- ・現場業務を理解してくれる開発パートナーと推進できる

MoMorphが対応する5つのAI駆動開発領域



	クライアントの課題	Sun*が選ばれる理由	MoMorphの対応
 新規事業 ・新サービス立ち上げ	・企画・アイデアを具現化したい ・スピーディにPoCやMVPを立ち上げたい ・ユーザー検証を重視したい	・自社に知見がなくてもスピーディに具現化できる ・仮説検証を高速に回して市場投入までたどり着ける ・最低限の投資でリスクを抑えられるMVP開発	★ MVP開発以降対象
 グロースフェーズの プロダクト開発支援	・拡張性とセキュリティを担保したい ・複数機能を並行で開発したい ・プロダクト品質・技術負債を対処したい	・増加するユーザーや機能に耐えられる設計でスケーリング ・品質を担保しつつスピードも維持 ・特定メンバーに依存せず、体制を柔軟に拡張できる	★★★★ 継続開発・改善フェーズ
 既存事業のDX ・業務リプレイス	・既存業務を効率化／可視化したい ・レガシーシステムを刷新したい ・製化・保守性の高い構成にしたい	・属人化やブラックボックスを解消できる ・今後の業務変化に強いシステムへ刷新できる ・現場業務を理解してくれる開発パートナーと推進できる	★★★ 設計・開発・テスト・移行
 社内エンジニアチーム の育成・内製化支援	・内製チームと協働したい ・特定領域に知見がほしい ・属人化せず、ノウハウを共有してほしい	・社内エンジニアと連携して開発速度を上げられる ・属人化せずに、ノウハウを社内に取り込める	★★ 設計・レビュー補助
 AI・データ活用	・AIやデータ活用をしたいが手段が不明 ・ビジネスゴールに向けて活用したい	・ビジネス課題に合ったAI活用ができる ・大規模な投資ではなく、スモールスタートできる ・社内にAI人材がいなくてもPoC～実装まで進められる	間接的に支援

課題特性に応じてリード人材を最適化する柔軟なAI駆動開発チームの構成

課題の性質に応じてアーキテクト／PM／デザイナーが主導し、MoMorphが設計精度と開発効率を支援します。

プロジェクト
の課題

技術的難易度が高い

機能・非機能要件が複雑で破綻リスクがある

大規模 or ミッションクリティカルなシステム開発。セキュリティ、パフォーマンス、冗長化、拡張性など非機能要件が多く複数チーム連携・技術的な整合性が必要

プロジェクト運営コストや 難易度が高い

要件・スケジュールの変動、関係者調整が必要

多部署・複数ステークホルダーとの調整が多く、開発スコップや優先度が頻繁に変動する。リソース調整・進行管理に課題がある

UI/UXや体験設計など クリエイティブ課題

UI/UX品質の担保、デザイン意図の伝達

UI/UXやジャーニー設計が成果の成否に直結する。ユーザー接点での体験や感情設計が重要でサービスデザインやブランドトーンも考慮が必要

AI駆動開発
チームの
フロント

アーキテクト

高難度・高負荷な要件でも、アーキテクト主導で要件の技術的妥当性を整理

要件分解と設計精度を AIで担保、拡張性ある構成設計

PM

経験豊富なPMがフロントに立ち、プロジェクト全体の進行・調整・リスクマネジメントを担当

タスク構造・進行管理を AIで明確化し、手戻り削減

デザイナー

デザイナー（UI/UX）がフロントに立ち、ユーザー視点での体験設計をリード

画面設計と仕様の連携、体験価値の一貫性保持



MoMorph

活用ポイント

AI-READY SDLC導入の進め方と展開ステップ

フェーズ		目的	主な活動内容	成果物・ゴール
1	現状分析・準備	開発体制・プロセスの可視化	ヒアリング／既存ワークフロー整理／課題抽出	改善方針・導入計画書
2	PoC導入(試行導入)	AI支援の効果検証	小規模プロジェクトでAI-READY SDLCを試行	工数削減・品質向上の効果測定
3	本格導入・チーム展開	標準プロセスとして定着化	チーム全体に拡張／開発体制の最適化	共通テンプレート・ガイドライン
4	継続運用・AI最適化	改善・学習のループ構築	データ分析／AIエージェント調整／運用改善	成果の可視化・ROI最大化

Sun*が日本・ベトナムのハイブリッド体制で伴走し、初期設計からPoC・スケールまでを一貫サポート。
導入後も継続的にAIを最適化し、開発チームの成熟度を高めていきます。

プロジェクト立ち上げ時の準備状況ヒアリングシート

ご準備いただいている内容に応じて、Sun*が最適な支援体制をご提案します。

お客様のご状況・課題		チェック	Sun*の対応
UI/デザインのご準備状況	FigmaのUIデザインが用意できている	☐	そのまま実装可能です。修正も対応します。
	ワイヤーフレームや画面構成案PPT／Excel等）がある	☐	Figma化をSun*で実施可能です。
	既存サービスのスクショや参考サービスがある	☐	類似構成で画面設計をご提案します。
	特に資料はない（会話ベースで伝える）	☐	日本側PM／デザイナーがヒアリング支援します。
要件・機能のご準備状況	機能一覧・要件リストがある（ドキュメント等）	☐	BrSEがそのまま仕様に落とし込みます。
	口頭やメールなどで機能イメージはある	☐	要件整理の支援を行います（日本側PM伴走）
	課題感・実現したいことはあるが要件は未整理	☐	上流工程からヒアリングして整理可能です。
技術的な条件・既存環境	API仕様書がある／バックエンドは既にある	☐	フロント側から接続・疎通可能です。
	既存サービスの一部改修である	☐	差分設計と改修影響の分析を行います。
	開発対象はゼロから新規立ち上げ	☐	要件定義～構築までトータルで支援可能です。
その他のご希望・課題感	UXやUIの改善も相談したい	☐	UXデザイナー／日本側デザイナーが伴走します。
	短期間でのリリースが必要	☐	フェーズ分割やAI支援で高速化対応します。
	社内にPMや開発リソースが不足している	☐	必要に応じて日本／ベトナム側PMやBrSEを配置します。

Sun*のAI駆動プロダクト開発支援が成果につながる理由

AIがチームの力を引き出し、スピードと品質を両立。再現性の高いプロセスで、持続的に成長するプロダクトづくりを実現します。

AIで属人性を排除し再現性を確保



誰でも高品質を再現できるチームへ

翻訳・要約AIでグローバルPJも円滑に



言語の壁を越えたスムーズな連携

要件からUI設計までを自動連携



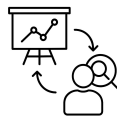
設計・実装を一気通貫でスピード化

自動テストとコード生成で品質を保証

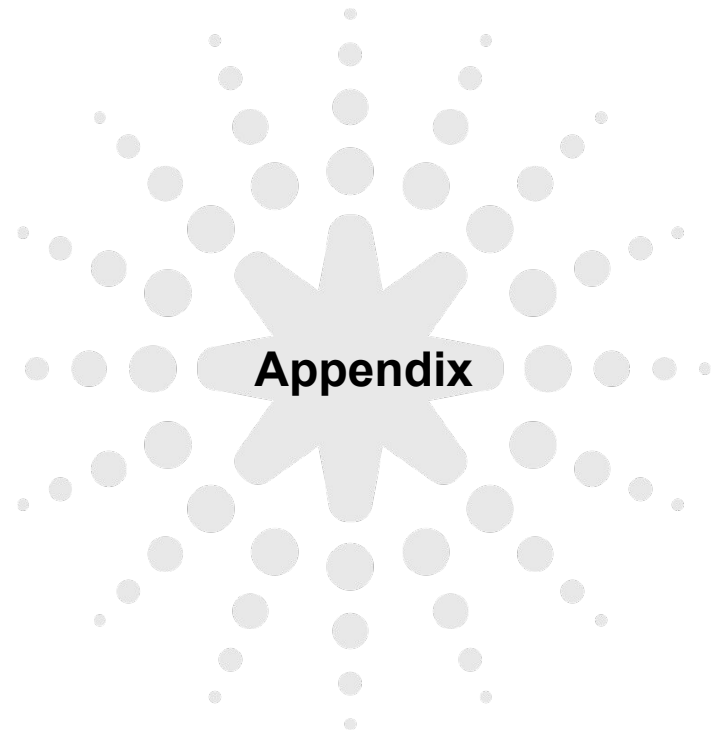


常に高品質を保つ自動化された開発

データで見える育成と改善のサイクル



成長が見える、進化するチームへ



従来SDLCの課題を、Sun*のAI-READY SDLCが解決

一般的なSDLCでは、工程ごとに属人化・手戻り・認識齟齬が発生し、品質や速度が分断されがちです。
Sun*のAI-READY SDLCは、ツール単体での対応ではなく、プロセス全体にAIと自動化を組み込むことで課題を解決します。



2025年の潮流：AI開発における「新たな壁」

2025年の開発トレンド



AIによるコーディングが「お試し」の段階を終え、本格的で信頼性の高いソフトウェア開発へと移行
これまでの直感的で場当たりの AIとの対話、いわゆる「Vibe Coding（雰囲気コーディング）」からの脱却

なぜ今「スペック」が重視されるのか？



品質のばらつき

AIの機嫌やプロンプトの些細な違いで、
出力されるコードの品質が安定しない。



保守性の低下

コード生成の理由や設計思想が不明確なため、
後からの修正や機能追加が困難。



大規模開発が不向き

チームでの共通認識が作りにくく、複雑なソフトウェア開発には対応できない。

スペック駆動開発とは

人間が「What(何を作るか)」「Why(なぜ作るか)」
を「SPEC(仕様書)」を書き、それを AIに渡して
「How(どう作るか)」を効率化する

人間が設計図(スペック)を書き、AIが開発(ビルド)を行うためのツールが続々とリリースされている



AWS: Kiro
統合された「AI開発環境(IDE)」



GitHub: Spec-Kit
オープンソースのツールキット

「創造」と「改革」から支える、エンタープライズ向けAI駆動・Cloud支援サービス

Sun*は、新規事業の立ち上げから基幹業務のDX推進まで、大規模・複雑なエンタープライズ環境にも対応可能なAI×共創型の開発支援で、企業の持続的成長を伴走します。

 創造領域

新規事業・プロダクト創出

ゼロから市場を切り拓き、新たな成長源を創出を伴走
ビジネス・クリエイティブ・テクノロジーの三位一体で、
アイデアを事業へ転化し、顧客起点の新しい価値と収益機会を生み出す

0 → 1創発フェーズ
アイデアの事業化MVP検証

1 → 10成長フェーズ
UX最適化、事業拡張・収益化

事業成長フェーズの進化

 改革領域

業務プロセス・基幹 DX

既存事業の生産性を最大化し、経営基盤を変革を伴走
業務・データ・システムの統合を通じて、
経営判断と現場実行をつなぐ“変化対応型の経営基盤”を構築

業務システム標準化
非効率特定・可視化・自動化

クラウドERP導入
意思決定スピード・精度UP

 **HEART Development**

新規事業の構想・検証を支援する、AI×共創型プロダクト創出支援

 **MoMorph**

属人性を排除し、再現性あるソフトウェア開発を実現する、大規模・ミッションクリティカルな開発にも対応可能なAI駆動型の開発基盤／エージェント連携支援サービス

SAP クラウド導入支援

SAP S/4HANA Cloud等の導入を通じ、基幹システムのクラウド移行に対応

※Sun*は、通信・製造・金融・インフラ・教育などエンタープライズ領域において、AI×共創によるシステム開発を多数支援しています。

各開発フェーズで、Sun*のDevOps・AIツールは何をどう変えるのか？

	フェーズ	Before : 従来のSDLC課題	Sun*のDevOps・AIツール	After: AI-READY SDLCの改善
1	要件定義	人手で要件整理／言語ギャップで手戻り	Translator / Themis	AIが要件補完・翻訳支援 → 手戻り防止
2	設計 (UI/UX含む)	Figma手作業・属人化	MoMorph	UI自動生成・仕様変換 → 設計工数削減
3	実装	テストやLintが後回し	Zeus / Atena / MoMorph	コード＋テスト自動生成 → 品質×速度両立
4	テスト	検証漏れ／工数膨大	AscleAsclepius / Hestia	自動テスト＋脆弱性診断 → 網羅性＋スピード
5	デプロイ・運用	Jenkins等でバラバラ運用	Hermes / Nyx	デプロイ～監視一元化 → 運用負荷削減
6	モニタリング・分析	パフォーマンス把握が属人化・後手	Atlas / Argus	継続的なフィードバック → 早期リスク検知
7	コミュニケーション	Slackやり取りが属人的／言語の壁	Echo	翻訳・分類の自動化 → 認識齟齬なし
8	評価・育成	評価が曖昧／育成が属人化	Argus / Apollo	パフォーマンス可視化 → 育成の仕組み化

AIと共に、開発の未来を共創する。

Sun* AI-READY SDLC — 人の創造力とAIの再現性で、持続的な成長を支える新しい開発アプローチ。



ご関心をお持ちの方は、ぜひお気軽にご相談ください。

<https://sun-asterisk.com/contact/>